

令和6年度 第3回 篠原小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年12月5日（木） 10時00分～11時40分
- 2 開催場所 篠原小学校 会議室
- 3 出席委員 鈴木 直樹、脇本 和義、森下 晃司、辻村 栄子、石津 正貴、
横井 詠子、大瀧 健太、榎本 那美
- 4 欠席委員 小楠 倫嗣
- 5 オブザーバー 長谷川 光洋（篠原協働センター）
- 6 学 校 結城 知則（校長）、藤井 早苗（教頭）、岩上 直人（CS担当教職員）、
中島 和美（CSディレクター）
- 7 教育委員会 鈴木 陽子（浜松市教育委員会教育総務課）
- 8 傍聴者 なし
- 9 会議録作成者 CSディレクター 中島 和美

10 議長の選出

議長については、第1回会議において会長（鈴木直樹委員）が今年度の議長を務めることが決定していることから、全員異議なくこれを承認した。

11 協議事項

- （1）授業参観後の感想、意見
- （2）学校評価項目について

12 会議記録

司会の藤井から、委員総数9人のうち8人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（1）授業参観後の感想、意見

10時20分から10時50分まで南校舎の授業を参観し、委員から以下の通りの発言があった。

- ・1年生の授業では、明るくにぎやかで元気だと感じる反面、前を向いていられない、座って話を聞けない子がいる等、個々の指導が必要な場面も見受けられ、1年生の課題となっている一斉指導が困難だという様子を感じられた。（榎本委員）
- ・グループ学習が多く、和気あいあいとした雰囲気の中で発言も多く出ており、互いの意見を聞くこともできていた。学年、クラス、グループにより雰囲気の違いがあり、先生達がそれぞれに合わせた指導をする大変さがあると感じた。（大瀧委員）
- ・友達の作品の良いところを伝え合うという授業から、互いの良さを見つけ合うという方針が感じられ、学校教育目標に基づいた授業が行われていると感じた。（横井委員）
- ・ひとりでぽつんとしている子がいたが、低学年のうちには特に学校が楽しいところであってほしい。ボランティアの方に支援をお願いするなど、一人も取り残さないという学校の課題を解決していく手助けができればと感じた。（石津委員）

- ・授業の始めにめあてを伝えていて分かりやすい。どのクラスも明るい雰囲気、子供たちから積極的に意見が出ている。また、外国人指導では、少人数での指導がされており、個々に寄り添った指導ができていると感じた。（辻村委員）
- ・参観のため教室に入るとすぐに声を掛けられた。先日行われた地域でのイベントの際に交流があったため、気軽に声を掛けやすいのではないかと疑問に思っている。まず一斉指導ができてこそ、一人一人に寄り添うことができるのであり、一斉指導するためには、まず静かに人の話を聞くなどのマナーを浸透させることが大切ではないかと感じる。（脇本委員）
- ・担任一人ではなく、複数の大人（先生）がクラスに入って子供と接することで、子供の体験が広がり、様々な刺激や影響があって良い。（脇本委員）
- ・学校は集団で学習する場所であり、自分を抑制せず解放する場所ではないということを学ぶことが必要。先生方の指導の下、学年が上がるにつれて身に付いていくのではないかと。（直樹委員）
- ・発達教室の子供たちが大変落ち着いてしっかり学習ができていると感心した。（直樹委員）

（2）学校評価項目について

教頭より、学校評価項目についての説明があった。

協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

その他報告事項等

- ・学校支援コーディネータの石津委員より、ボランティアの活動報告および今後の課題（年間の活動計画の把握。支援内容についての相互確認）についての意見があった。
- ・教頭より、自己評価表についての説明があった。
- ・直樹委員より、先日行われた体罰アンケートの結果を次回会議で報告してほしいとの意見があった。
- ・篠原協働センターより、地域活動についての報告があった。
- ・校長、教頭より、150周年記念事業（リーフレット作成、記念遊具設置）について、それぞれ説明があった。
- ・司会から、次回会議は、令和7年2月5日（水）午前10時00分から会議室で開催する旨の報告があった。